

論文の内容の要旨

氏名：池田 頼宣

博士の専攻分野の名称：博士（歯学）

論文題名：Effects of initial periodontal therapy on the incidence of *P. gingivalis* and EBV DNA in chronic periodontitis patients

(慢性歯周炎患者における *P. gingivalis* とエプスタインバーウイルスの検出率に対する歯周基本治療の効果)

慢性歯周炎は、プラーク細菌によって引き起こされる最も罹患率の高い炎症性疾患である。近年、エプスタインバーウイルス（EBV）は、歯周病原菌である *Porphyromonas gingivalis* と共に歯周炎の発症と進行に関与すると考えられている。歯周基本治療は、歯周組織の健康を取り戻すために、モチベーションの向上、歯石や歯周病原菌およびその産生物を除去することを目的としている。慢性歯周炎患者の唾液および歯肉縁下プラーク中の *P. gingivalis* と EBV の検出率への歯周基本治療の効果を解析するために本研究を行った。

20名の慢性歯周炎患者からの唾液と17名の慢性歯周炎患者の歯肉縁下プラークを採取し、歯周炎の診断は、プロービングポケット深さ（PD）、ブリーディング時の出血（BDP）とクリニカルアタッチメントレベル（CAL；歯肉縁下プラークを採取した患者のみ）で行った。唾液または3mm以下のPD部位（健康部位；HS）と5mm以上のPD部位（歯周炎部位；PS）の2か所から歯肉縁下プラークを初診および歯周基本治療終了後に採取した。唾液と歯肉縁下プラークサンプルから全RNAを抽出し、リアルタイムPCRで *P. gingivalis* と EBV を検出した。

慢性歯周炎患者（20名）の初診時の唾液中から、*P. gingivalis* は20名（100%）、EBVは14名（70%）で検出された。歯周基本治療終了後には、*P. gingivalis* は17名（85%）、EBVは9名（45%）から検出され、検出患者数が減少した。唾液中での *P. gingivalis* と EBV の共存は、初診時には14名（70%）から検出されたが、歯周基本治療終了後に8名（40%）へと有意に減少した。

慢性歯周患者（17名）の初診時のHS部位の歯肉縁下プラーク中から、EBVは9部位（52.9%）、*P. gingivalis* は14部位（82.3%）で、PS部位の歯肉縁下プラーク中から、EBVは13部位（76.5%）、*P. gingivalis* は14部位（82.3%）で検出された。歯周基本治療終了後のHS部位の歯肉縁下プラーク中から、EBVは5部位（29.4%）、*P. gingivalis* は13部位（76.5%）で、PS部位の歯肉縁下プラーク中から、EBVは9部位（52.9%）、*P. gingivalis* は10部位（58.8%）で検出された。*P. gingivalis* と EBV の共存は、初診時のPS部位では12部位（70.6%）であったが、歯周基本治療終了後に6部位（35.3%）と有意に減少した。唾液を採取した20名の慢性歯周炎患者と歯肉縁下プラークを採取した17名のPS部位の平均PDおよびBOPは歯周基本治療後に有意に改善した。

本研究の結果は、歯周基本治療が歯周病の臨床パラメーターであるPDおよびBOPの改善に効果的であり、慢性歯周炎患者の唾液中の *P. gingivalis* と EBV の共存およびPS部位の歯肉縁下プラーク中の *P. gingivalis* と EBV の共存の減少に効果的であることを示唆していた。しかしながら、歯周基本治療によって *P. gingivalis* と EBV を完全に駆除することはできないことから、歯周治療法の改善のためのさらなる取組みが必要と考えられる。